

乳児在宅医療における医療機関と 保健所とのタイアップについて

—東京都下の保健所へのアンケートによる実態調査—

(分担研究：新生児・乳児の退院後の在宅ケアシステムに関する研究)

研究協力者 奥 起久子

共同研究者 石田 東生 田村 健一 山南 貞夫

要約：東京都下の保健所・保健相談所を対象として、NICU退院後の乳児在宅医療における保健所と医療機関のタイアップの実際と今後のありかたに関するアンケート調査を行った。

82%の保健所で乳幼児在宅医療事例の把握経験があり、最近3年間での乳児事例数は101名であった。介入内容や今後の取組みへの姿勢については各保健所により大きな格差があった。役割としては医療機関と連携しての環境作りの支援・コーディネートが主体になり、技術援助は内容によっては対応困難な場合があると思われた。

今後の課題として、医療機関と保健所間の連携のシステム作り、援助の地域化が重要と考えられた。

見出し語：在宅医療、乳児、保健所

研究方法：東京都下の全保健所・保健相談所111ヵ所を対象として、NICU退院後の乳児在宅医療において、保健所と医療機関のタイアップの実際と今後のありかたに関するアンケート調査を行った。郵送によるアンケートを実施し、あわせて電話確認を行った。

調査項目は、① 各管轄内で経験した在宅医療児の種類、② 1989～91年の3年間に把握した各種在宅医療児事例数、③ 現在の在宅医療児に対する援助内容、④ 今後可能と考えられる援助

内容、⑤ 医療機関と保健所の連絡システム、⑥ 乳児在宅医療に関する保健婦側の意見、である。

なおここでいう在宅医療とは、在宅酸素療法、気管切開、人工換気療法、経管栄養、吸引器・モニターの使用、在宅腹膜灌流 (CAPD)、ストーマ (人工肛門・腎瘻・胆汁瘻など) と定義した。

結果：111ヵ所中100ヵ所 (区部77ヵ所94%、市部23ヵ所80%) から回答があり、回答

率は90%であった。

- ① 100カ所中82カ所で、乳幼児の在宅医療事例の把握があった。最近3年間(1989~91年)の把握乳児事例数は合計101名で、内訳は経管栄養が最も多く47、以下吸引器使用38、ストーマ31、在宅酸素19、モニター使用5、気管切開2、CAPD1であり、人工換気例はなかった。幼児事例も含めると合計は183、経管栄養94、吸引器72、ストーマ42、在宅酸素36、モニター7、気管切開21、CAPD4で、在宅人工換気の把握事例は5であった(図(奥-1、2))。
- ② 保健所によっては在宅乳児の援助に積極的に取組まれていたが、一般的には今後への取り組みをも含めて、保健所間に大きな格差があった。援助内容としては、医療機関と連携しての環境作りの支援・コーディネートが主体になり、技術援助は内容によっては対応困難な場合があると思われた(表(奥))。

- ③ 医療機関と保健所間の連絡システムについては、一部で特定病院との間に連携のシステムがある以外、かなり不備と思われた(図(奥-3))。
- ④ 保健婦側からの要望・意見として、退院連絡の徹底、退院前の病院のケースカンファランスへの参加希望、技術指導の希望、病院側窓口の明確化、地域の開業医への啓蒙などが主なものであった。

考案：今後の課題として、医療機関と保健所の連携のシステム化、援助の地域化に目を向けていく必要性が挙げられた。また事例に対する取り組み姿勢についての保健所間格差については、その地域の核となる病院の有無とその介入の影響が大きい傾向にあることから、医療機関から保健所への積極的な働きかけが必要と考えられる。

表(奥)

表：東京都下保健所における在宅治療乳児への援助内容

回答保健所・保健相談所 100/111

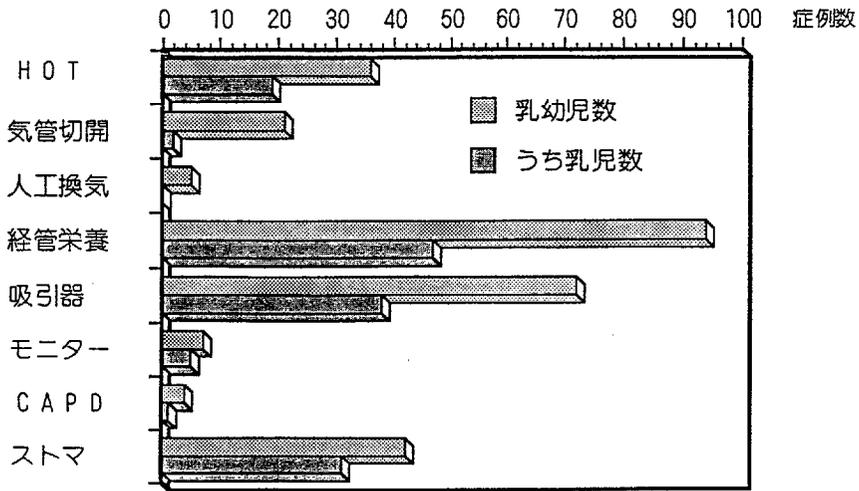
援助項目	実施保健所 (%)	今後可能保健所 (%)
保健指導・栄養指導	77	94
発達相談	61	83
心理相談・訓練	35	61
予防接種	57	77
医療機関の紹介	42	77
関係諸機関の紹介・助成制度案内	72	93
例えば数カ月に1回の家庭訪問	75	93
頻回(月1回程度)の訪問	23	46
必要消耗品の供給	16	26
技術援助(経管栄養)	17	32
技術援助(ストーマ)	15	30
医療機器の整備・貸出	3	9

その他：親の交流援助、同行受診、ヘルパー、ボランティアの紹介
兄弟の保育所入所斡旋、家族内調整、精神的援助

図（奥-1）

東京都下保健所における
乳幼児在宅医療の把握症例数

把握症例総数 183、うち乳児 101（期間 1989-91）

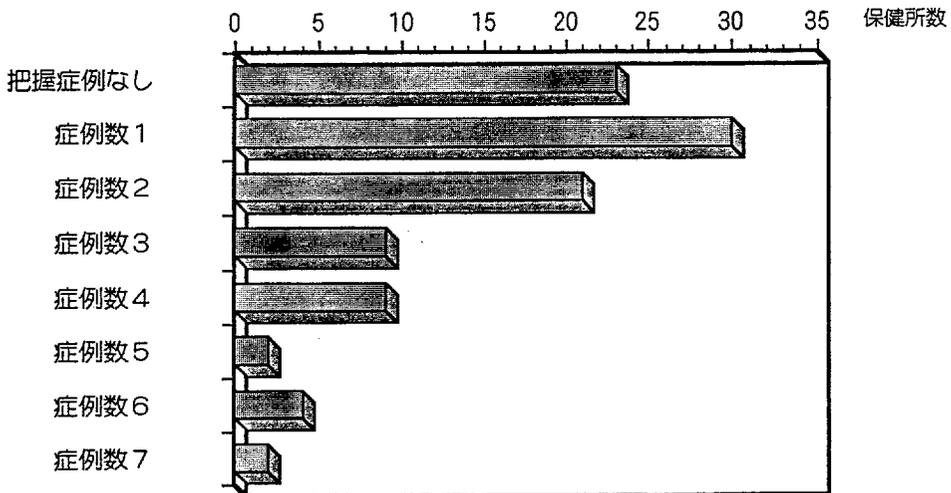


回答保健所数 100/111

図（奥-2）

東京都下各保健所における
乳幼児在宅医療症例の把握状況

期間 1989-91



回答保健所数 100/111

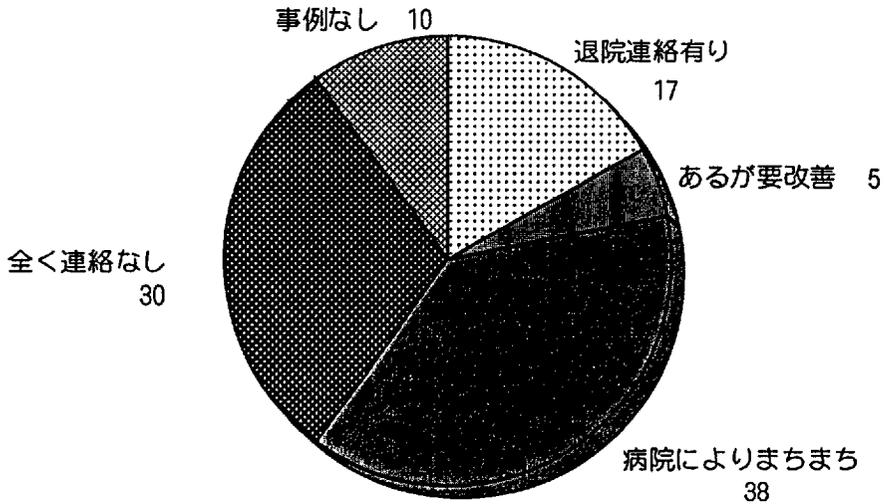
図（奥-3）

東京都における

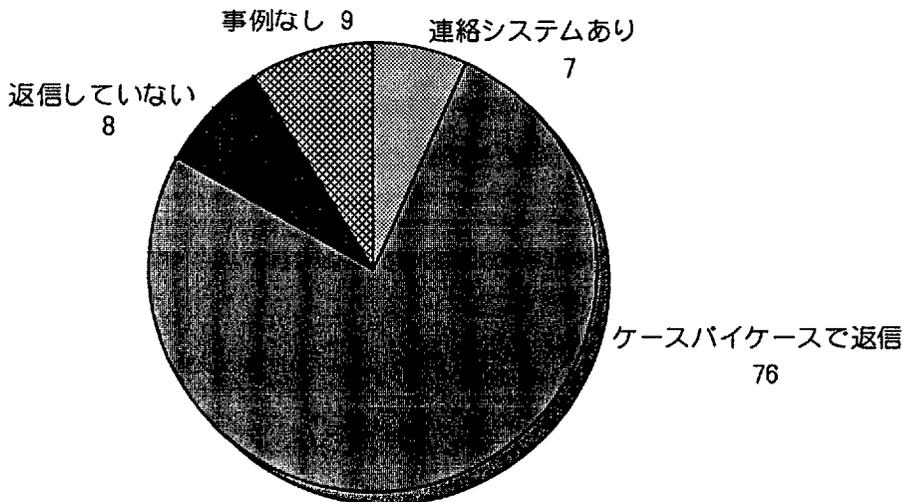
要在宅医療児の保健所と医療機関の連絡システム

回答保健所数 100/111

医療機関から保健所へ



保健所から医療機関へ





検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約：東京都下の保健所・保健相談所を対象として、NICU 退院後の乳児在宅医療における保健所と医療機関のタイアップの実際と今後のありかたに関するアンケート調査を行った。82%の保健所で乳幼児在宅医療事例の把握経験があり、最近 3 年間での乳児事例数は 101 名であった。介入内容や今後の取組みへの姿勢については各保健所により大きな格差があった。役割としては医療機関と連携しての環境作りの支援・コーディネートが主体になり、技術援助は内容によっては対応困難な場合があると思われた。今後の課題として、医療機関と保健所間の連携のシステム作り、援助の地域化が重要と考えられた。